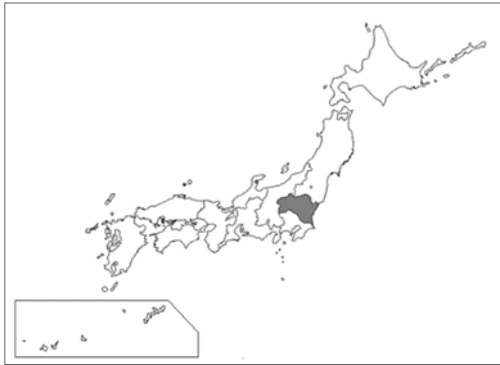


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

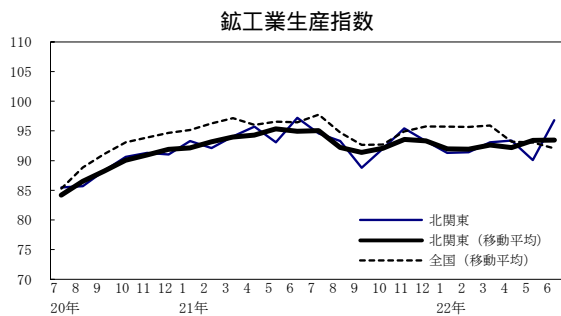
前回からの主要変更点

	前回 (令和4年6月)	今回 (令和4年9月)	
景況判断	持ち直しに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している	
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4-6月期の鉱工業生産は、「輸送機械」や「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により、前期比1.6%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	▲2.2	▲1.7	0.4	▲3.3	0.9
輸送機械	18.3	▲5.9	7.4	▲0.8	▲6.2	22.3
汎・生産・業務用機械	17.1	▲0.5	3.4	1.7	▲1.6	4.9
食料品・たばこ	12.1	▲1.6	—	▲3.0	2.0	—
電子デバイス、電気・情報通信	11.2	1.7	▲1.9	1.7	▲10.8	13.2
鉱工業	100	▲1.7	1.6	0.3	▲3.5	7.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 4-6月期、6月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

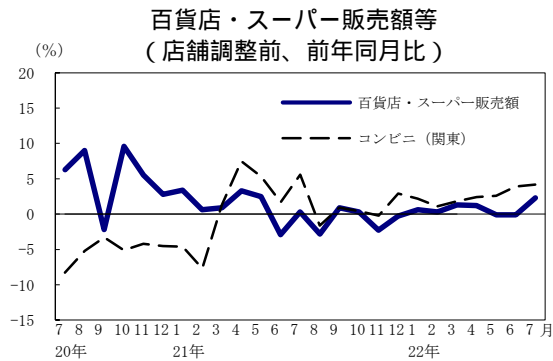
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比 1.1%増となった。月別にみると、4月は前月比 0.7%減、5月は同 2.6%増、6月は同 1.8%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比 0.3%増となった。月別にみると、4月は前年同月比 1.2%増、5月は同 0.1%減、6月は同 0.1%減となった。



	2022年4-6月	2022年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	1.1	▲0.7	2.6	▲1.8	—
百貨店・スーパー(*2)	0.3	1.2	▲0.1	▲0.1	2.3
コンビニ(*3)	3.0	2.4	2.6	3.9	4.2
乗用車(*4)	▲13.5	▲14.6	▲18.3	▲8.2	▲6.3
(季節調整値) (*4)	0.6	0.1	▲7.3	10.1	2.3

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2022年7月は速報値。

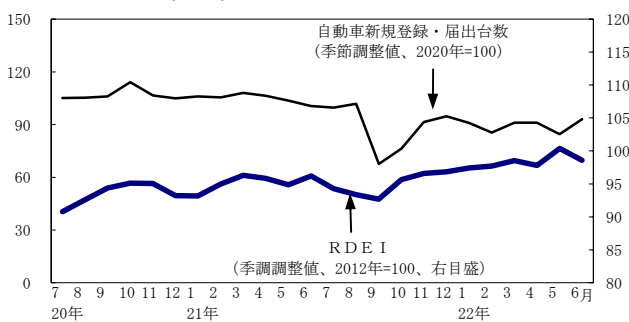
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

2022年7月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

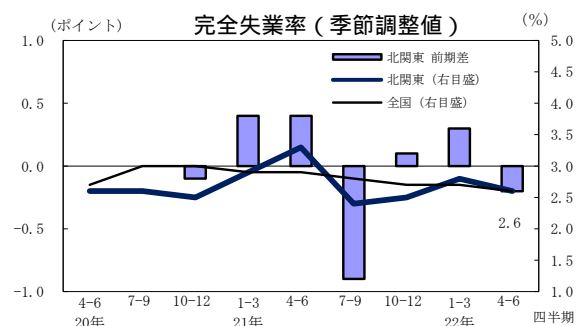
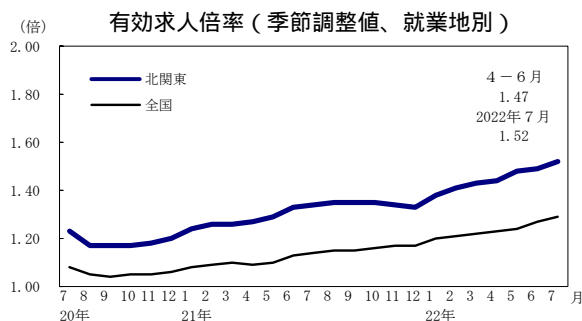
RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・行動規制のない夏休みだったので、上向きと思えたが、新型コロナウイルスの新規感染者数は依然高止まりで、来客数はそれほど伸長していない（スーパー）。
		▲	・新型コロナウイルスの特需が終息し、来客数が前年割れしている。3年前の新型コロナウイルス感染症の発生前の水準に戻っている（住関連専門店）。
		×	・新型コロナウイルスの新規感染者数が日々過去最高を更新していて、行動制限がなくても、飲酒等をしている人がいない。電車に乗っている人も少ない。若い乗務員が少ないなか、タクシーの給料では生活ができないと、当社以外でも退職者が目立つようになっている。午前中は多少動きがあっても、午後から夜や深夜は仕事にならない（タクシー運転手）。
	企業 動向 関連	□	・今月も猛暑となり、エアコン、扇風機等の夏物家電は前年並みの物量を確保している。しかし、燃料コストの高止まりやドライバー不足による車両確保費用が高くなり、利益は薄くなっている（輸送業）。
		○	・取引先からの受注予定数量が増加しており、やや良くなっている（金属製品製造業）。
		▲	・材料費の高騰により収益が圧迫されているようで、宣伝広告予算は削られる一方である（広告代理店）。
雇用 関連	□	・求人数も増えているが、求職者数も増加傾向にある（職業安定所）。	
	○	・白物家電や一般家電等の冷房商材と衣料品は買い増しがあったようである。住宅関連では、外壁、屋根等の修繕、塗装関係で活発な動きが見受けられる。生鮮食料品等の購買は、価格が若干高めながらも、人の動きが増えたせいもあるかもしれないが、良かったようである（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント		○：今月に入り、県民割等の効果もあり、個人旅行もおおむね順調に推移している。通常、お盆明けには落ち着いてしまう個人の動きも、落ち込むこともなく推移している。また、お盆前後の教育旅行も堅調である（旅行代理店）。 □：台風の季節を迎えるが、屋根や外壁の問合せがやや少ないと感じている。原材料高については周知の事実となっているようで、いまだ様子見の感じがする（その他住宅[住宅管理・リフォーム]）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの感染状況は多少落ち着くと思われる一方で、エネルギー価格や食料品価格の高騰等、本格的な景気改善には至らない（百貨店）。
		▲	・当店は値上げせずに頑張ってきたが、このまま物価高が続けば値上げは必須であり、客がついてこられるか心配である。また、家計にじわじわと影響が出ており、客の来店頻度は減るだろう（一般レストラン）。
	企業 動向 関連	□	・酷暑のなかでも、製造や売上は共に順調に推移しているので良かったと思っている（窯業・土石製品製造業）。
		○	・第3四半期の生産計画では、中国向け部材を中心に生産数が2割程度増産となる（電気機械器具製造業）。
	雇用 関連	□	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、一時的な人員不足等が発生している派遣先からの依頼が増えているが、求職者不足の状況はしばらく続くと思われるため、変わらない（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント		◎：いまだ新型コロナウイルス感染症の発生前には届かないものの、料飲部門も先の予約は前年比130%以上で獲得できている（都市型ホテル）。 □：秋口になって気温も平年並みになってくれば、人の動きも良くなり、イベント等もできるようになってくると思っている。少しは安心できるのではないか（一般小売店[精肉]）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

